

新刊紹介

巴和小辭典

雲井昭善編

凡そいかなる學問に於いてもその研究遂行上、その分野の辭典の缺如は大いなる障害である。この面からみても本辭典の出版は、日本に於ける原典研究史の一頁を充分に飾りうるものであらう。

原始佛教の分野が開拓されて以來、辭典としては R. C. Childers 氏の A. Dictionary of the Pali Language (1874; London) や T. W. Rhys Davids 及び William Steed 兩氏の Pali-English Dictionary (1921; P. T. S.) 等が出版されている。

然しこれ等の辭典は、高價であつて容易に入手出来ないのが現状である。外國にこの様な辭典の出版があるのに比して、日本では本格的な辭典の出版は残念ながら今迄なく、こうした辭典の出版は、日本佛教學界の久しく待望していたところである。

それが今日『巴和小辭典』となつて、本學の雲井教授によつて出版されたことは、一人その方面の研究者のみならず佛教學界全體にとつての大いなる曙光となることであらう。

本辭典の特色については、編者自から一筆しているので、今その大略を記す。

「用語は概ね、四阿含 (P. T. S 本) と南方論部 (同) の代表論書の中から選出し、諸辭典の譯語と南傳和譯末尾索引の譯語を参照し、且、巴利と漢譯との連關性について特に留意した」と。

又本書は、Pali 語と Sanskrit との關係を重視する意味から、Sanskrit を要する單語にはそれを合わせ擧げている。そして更に卷末では、簡単な文法と一般的な梵巴聲音變化對照表をも加えている。

ところで本書は第一回分冊出版から六年餘して完成されたが、その間には編者の約一年半に亙る療養生活等もあつて、多大の勞苦が推察される。がその出版意圖は、ひとえに『一に以つて初學徒の原典講讀の便に資することを念願』した學者の一面にあるのであらう。餘談になるが、この出版について昨年東大で行なわ

れた日本印度學佛教學會第十二回學術大會の第2部會で、長老格の長井眞琴博士が本書を取りあげて、絶讃されていたことを思い出す。

以上いたらぬ紹介ではあつたが、最後に一筆加筆したいことがある。それは本書の編者雲井教授は昨年十二月、文學博士の學位を得られているが、その副論文がこの巴和小辭典であつたことである。

このことは、本書のもつ學問的價值を單的に示している、と云えるのではなからうか。

昭和36・4・1・法藏館・B5・三六〇頁・函入・二九〇〇圖(渡邊)

教行信證の諸問題

稻葉秀賢著

本書の序言にも記されてある如く、眞宗學は、「教行信證」に説き著わされた眞實普通の法を、その時代々々に於ける一人々々の宗教的自覺の立場から、領受開顯してゆくものに他ならない。その爲には、教行信證自體が傳承と己證の美事